



核兵器禁止条約の交渉開始を求める運動を確認 日本原水協第83回総会ひらく

日本原水協第83回全国理事会（総会）が2月3～4日の2日間、東京で開かれました。総会には全国45都道府県と21中央団体、個人理事など124人が参加し、新しい局面を切り開いた原水協運動に確信を持ち、核兵器廃絶へいっそう奮闘する決意を固めました。

岡山県原水協は平井事務局長、石原次長が出席しました。

開会挨拶で高田公子代表理事（新婦人会長）は「『核兵器のない世界を』署名を700万筆集めた日本の運動が国連や各国政府を動かし、核兵器廃絶の流れを大きくしてきたことに確信を持ちま



第83回全国理事会(2/3・東京 平和と労働センター)

しょう」と訴えられました。高草木事務局長は2010年のNPT再検討会議の到達点を作り出した日本原水協の国際的イニシアチブにふれ、それをさらに発展させる立場で2月15日を期して新しい署名「核兵器の全面禁止のアピール」署名に取り組む方針を提起されました。

この新署名は2010年5月のNPT再検討会議が核保有国を含む189の国々「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」ことを決めました。今それを実行に移すときで、すべての国の政府にすみやかに核兵器禁止条約の交渉を開始するよう求める署名です。

すでに国内外の多くの著名な人々から賛同が寄せられていることも報告されました。

熱い決意の発言続く

討論では新署名の取り組みの状況と熱い決意の発言が続きました。「県内400余名の著名人へ賛同要請を行い、すでに知事から寄せられ運動を支える募金も12万円を超えた」（埼玉）、「地域ぐるみの運動にするために地域原水協づくりと結合させ、壮大な波を作りたい」（長野）、「1000カ所に申し入れる準備中」（北海道）、など中央団体と地方が一体となった運動を進めることも強調されました。

岡山県原水協平井事務局長は「非核自治体宣言集を作成、これを武器に自治体ぐるみの運動を進める」決意を発言しました。

「ワクワクする運動」 日本の役割重要

討論のまとめに立った高草木事務局長は「新しい署名運動は『ワクワクする運動』と皆さんから受け止められた。この運動は今日の国際政治上の到達点を示す核兵器廃絶の具体的方針を示すもの。それだけに日本の運動の役割は重要だ」と強調されました。



岡山のPPOの活動について発言する石原次長

PPOの活動をもっと大きく 深刻な後継者問題を実感 石原次長感想

原水協の事務局次長になって今回初めて総会に参加しました。2日間、途切れることのない50もの発言件数には圧倒されました。私は、PPOの活動を紹介しました。しかし、全国的に青年の原水禁運動への参加が少ないようで、ここでも後継者問題が深刻であると実感しました。岡山のPPOの活動はまだまだ灯火程度ですが、もっと大きな波にできるように、がんばっていきたいと、気持ちを新たにしました。

新事務局長に 安井正和氏

第83回全国理事会では新しい事務局長に安井正和氏を選出。高草木博氏は民医連会長の藤末衛氏とともに8人の代表理事のひとりに選ばれました。